心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.10
平成26年7月14日

ウェルカム集会開かれる

７月１４日（月）、愛知黎明高等学校が、毎年、国際交流週間に受け入れているアメリカからの交換留学生１１名が、桜小学校を訪問しました。

桜小学校では、体育館改修中のため、市民ホールをお借りして児童会の企画・運営によるウェルカム集会を開いて、交換留学生を温かく**おもてなし**しました。

大きな拍手で迎えられた交換留学生のみなさんは、満面の笑みを浮かべながら、花飾りのアーチをくぐり入場しました。児童会長の谷口達俊君の英語による歓迎のスピーチから始まり、なぎなた部の演舞やインタビューゲーム、全校合唱「forever」「校歌」等を披露しました。

その後、５・６年生の教室に入って、児童とともに給食や清掃を体験しました。わずかな時間でしたが、交換留学生のみなさんが、日本の文化や伝統、桜小学校の校風や児童気質を少しでも感じ取っていただければ幸いに思います。

日本の清掃―導入する海外の学校

インタビューゲームの中での交換留学生の予想外の答えとして反響が大きかったのは、「***教科書が一人一人に与えられてないこと*」*「清掃をしなくてもいいこと」***でした。義務教育期間は、国から教科書を無償で給付されている、教科書に基づいて授業を進めている日本の実態から予想すると、子どもたちには驚きであったようです。

交換留学生は、清掃の時間に初めて日本の清掃を体験しました。箒（ほうき）を使ってゴミを掃（は）き集めることは、そんなに辛くなかったようですが、ぞうきんがけは相当応えたようです。玉の汗を流しながら、顔面を紅潮させて校長室に入ってきた様子から、それを伺い知ることができました。

さて、日本の学校における清掃や給食が、海外の日本人学校や地元の学校で取り入れられていることが、以前、ＴＶで放映されていました。

日本人のモラルの高さに驚いたサウジアラビア人が、***「その原点は、小学校の時からの子どもたちによる清掃ではないか」***と、コメントしていました。

また、アメリカの子ども達は教室を汚し放題で、清掃は用務員の仕事だと考えている。一方で、自らが小さな用務員でもある日本の子どもたちは、「クラスごとに毎日学校施設を清掃するのが当然と考えている。だからこそ、普段から汚さないように心がける意識が身についていくのだろう」と、考えるアメリカ人もいるようです。

「自分の使う机やロッカーのほか、教室やトイレ、体育館、運動場、学校の周囲の道路まで当番制で清掃をするという日本の教育が、学校を卒業した後、社会人となっても、さらには、老後に至っても、常に「清潔さ」に心がける国民性を生み出している」と、コメントしている人もいます。

日本の清掃を導入した学校では、「物を大切にするようになった」「ごみを落とさなくなった」「自分の身の回りのことを自分でするようになった」など、その反響が大きく、日本の清掃を学校で取り入れている国が増えているようです。

あいさつや清掃などを通して、しつけや人格形成をめざしてきた日本の学校の良さを、今一度見つめ直し、良き伝統として継承していきたいものです。